

コロラド州における音楽スタンダードの構成と内容の特徴

—全米コア音楽スタンダードとの比較を通して—

廣 濱 隆 世

(広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期)

Constitution and Content Characteristics of Music Standards in Colorado: Through Comparison with National Core Music Standards

Ryusei HIROHAMA

Abstract

In the United States, the National Core Music Standards, that is, common educational goals in music, were established in 2014 as a revision of the National Standards for Arts Education. As in the United States, the authority of education is left to the states, so the National Core Music Standards do not have legal value and each is free to establish its own standards. Although most states follow the National Core Music Standards, some states that follow them have their own unique characteristics. In this study, we examined and analyzed Colorado's music standards. The results showed that while the Colorado music standards are said to conform to the "National Core Music Standards," first, their artistic process, their structure and content differ from the "National Core Music Standards". Second, specific approaches to musical knowledge and skills are detailed for each grade. Third, the "Academic Context and Connections" section which is similar to the "Enduring Understanding" and "Essential Question" sections of the National Core Music Standards, is provided for each grade and content area. Fourth, "Colorado Essential Skills" section specifies which workforce skills are acquired through the content of the standards. In this study, we discovered another aspect of music education in the United States, which is a federal system, that cannot be solely analyzed based on the National Core Music Standards.

1. はじめに

2014年、米国では全米コア芸術スタンダード (National Core Arts Standards) が策定され、その音楽分野が、全米コア音楽スタンダード (National Core Music Standards) である。この全米コア音楽スタンダードは、1994年に策定された全米芸術教育スタンダード (National Standards for Arts Education) の音楽分野の改訂版であり、その改訂には米国の音楽教育団体であるNAfME (The National Association for Music Education) が関わっている。全米コア音楽スタンダードに関する先行研究には、聴取の観点から考察した武内 (2014) や改訂の特徴を明らかにした峯 (2015)、資質・能力について分析した齋藤 (2017) などがある。それらの研究から、全米コア音楽スタンダードは21世紀型スキルの育成に重心を置き、活動やプロセスを中心に構成され、音楽的な知識技能、固有性には言及されていないとされている。

米国では教育の権限が州に委ねられているため、各州がそれぞれでスタンダードを制定してきた。その際、全米コア音楽スタンダードに準拠する州が多い。しかし、全米コア音楽スタンダードには法的拘束力はないため、準拠はするものの構成が異なる州や独自にスタンダードを構成している州も一部存在している。例えばコロラド州では、全米コア音楽スタンダードに準拠しながらも、独自の構成・内容がとられている。このように、全米コア音楽スタンダードとは異なる構成や独自の内容・構成をとる音楽スタンダー

ドを検討することで、連邦制をとる米国における音楽教育を包括的に捉えることができると考える。

本研究ではコロラド州を対象に、全米コア音楽スタンダードとの比較を通してスタンダードの構成・内容を分析し、その特徴を明らかにする。

2. 全米コア音楽スタンダードとコロラド州音楽スタンダードの構成の比較

(1) 全米コア音楽スタンダードの構成

全米コア音楽スタンダードでは、4つの芸術プロセス「創造」「演奏」「反応」「関連性」に分かれ、芸術科目に共通する11のアンカースタンダードが設定されている。アンカースタンダードとは、教師が学生に芸術教育全体を通して示すことを期待する、一般的な知識とスキルを表している。これらのアンカースタンダードは、芸術の分野と学年レベルに共通しており、芸術リテラシーの具体的な教育を表現する役割を果たしている。芸術プロセスとアンカースタンダードを整理したものを表1に示す。

表1 全米コア音楽スタンダードにおける芸術プロセスとアンカースタンダード

芸術プロセス			
創造	演奏	反応	関連性
定義:新しい芸術的アイデアや作品を考案し発展させる。	定義:解釈と上演を通して、芸術的アイデアや作品を理解する。	定義:芸術を伝える意義について理解し評価する。	定義:芸術的アイデアや作品と個人的意味や外部とのコンテキストを関連付ける。
アンカースタンダード			
1. 芸術的アイデアや作品の創造と概念化。 2. 芸術的アイデアや作品の構造化と発展。 3. 芸術作品の改良と完成。	4. 上演のための芸術作品の選択, 分析, 解釈。 5. 上演のための芸術的技巧と作品の発展と改良。 6. 芸術作品の上演を通じた意図の伝達。	7. 芸術作品の知覚と分析。 8. 芸術作品の意図や意味の解釈。 9. 芸術作品を評価するための基準の適用。	10. 芸術作品を作るための知識と個人的経験の統合と関連付け。 11. 理解を深めるための芸術的アイデアや作品と社会的, 文化的, 歴史的な脈絡の関連付け。

(National Core Arts Standards: A Conceptual Framework for Arts Learning, p.13 より筆者作成)

表1をみると、音楽を創造する、演奏する、反応するなどの活動が目標となっているのではなく、音楽の理解や構造化など、メタ認知の側面が強い。

このように音楽の知識技能の習得が目標になっているのではなく、芸術プロセスを通して音楽そのものの理解による音楽リテラシーの育成や、活動の過程に重心を置く内容になっている。また、芸術プロセスではこの4つのプロセスごとに細かく構成要素が設定されている。構成要素とは芸術プロセスごとに設定された内容項目のことで、この要素に従って学年ごとにスタンダードの内容が設定されている。表2に全米コア音楽スタンダードにおける芸術プロセスと構成要素をまとめる。

表2 全米コア音楽スタンダードにおける芸術プロセスと構成要素

創造	演奏	反応	関連性
イメージ	選択	選択	関連性
計画と実行	分析	分析	関連性
	解釈	解釈	
評価・改良	リハーサル・評価・改良	評価	
提示	上演		

(峯 2015, p.261 より転載)

それぞれのプロセスで構成要素は異なるものの、「選択」や「分析」、「評価」など共通する言語で書かれている。スタンダード内容を見ても、例えば演奏プロセスの「選択」では、「関心、知識、テクニックスキル、コンテキストに基づいて提示される様々な音楽作品の選択」となっているが、反応プロセスの「選択」

では、「特定の目的やコンテキストに適切な音楽の選択」など、活動内容は異なるが本質的に同じ学習ができるようになっており、一貫性を持った内容である。また構成要素の言葉自体も音楽の知識技能の言葉ではなく、活動プロセスに関する言葉が使われている。

(2) コロラド州音楽スタンダードの構成

2020年版スタンダードの構成としては、「音楽の表現 (Expression of Music)」、「音楽の創造 (Creation of Music)」、「音楽の理論 (Theory of Music)」、「音楽の美的評価 (Aesthetic Valuation of Music)」の大きく4つの芸術プロセスに分かれる。これは、2009年版の旧スタンダードから変更されていない。また、音楽の授業を通して達成すべき能力について、各芸術プロセスにすべての学年に共通する8つの達成目標 (Prepared Graduates in Music) が示されている。8つの達成目標とは、コロラド州の教育を受けるすべての生徒が、中等教育修了後、職場環境での成功を確実にするために習得しなければならない幼稚園から12年生までの概念とスキルである。芸術プロセスと8つの達成目標を表3に示す。

表3 芸術プロセスの定義と8つの達成目標

芸術プロセス			
音楽の表現	音楽の創造	音楽の理論	音楽の美的評価
様々な考えや感情を伝えるために習得した音楽的知識やスキルを実践し、洗練し、演奏するプロセス。	音楽の作曲、即興、編曲において習得したスキルを示す。	組織化された音の特有の言語、慣習、力学、構造を理解する。	情報に基づいた音楽の評価と批評を行うために必要な知識と展望に焦点を当て、音楽の美しさ、心、魂といった歴史的、文化的、社会的背景を取り上げる。
8つの達成目標 (Prepared Graduates in Music)			
1. 音楽の概念を示すために、さまざまな方法で知識とスキルを適用する。 2. アイデアや感情を伝えるために、適切な技術と表現要素を用いて演奏する。 3. 独自の音楽性を発展させるための実践と洗練のプロセスを示す。	4. 目的のある意図を伝えるために、音や音楽のアイデアを作曲、即興、編曲する。	5. さまざまな方法で音楽の要素を読み取り、書き、分析して、音楽リテラシーを示す。 6. 音楽を解釈し、反応するための音楽的要素を聴覚的に識別し、区別する。	7. 情報に基づいた音楽的判断を下すための基準を用いて、音楽を評価し、反応する。 8. 関係や影響を理解するために、音楽のアイデアや作品を社会的、文化的、歴史的コンテキストと結びつける。

(Colorado Academic Standards Music, pp.5-6 より筆者作成)

「音楽の表現」は、定義をみると「演奏するプロセス」とあることから演奏に関する領域であり、達成目標からも、演奏技能の習得が目指されている。「音楽の創造」は、作曲、即興、編曲を扱う領域である。達成目標には「目的のある意図を伝えるために」とあることから、音楽の創作の技能育成が最終目標ではないことがうかがえる。「音楽の理論」とは音楽理論についての領域だが、達成目標の中に「聴覚的に区別する」などとあることから、知識と聴取力をつなげた能力が目指されている。「音楽の美的評価」は、音楽の評価や批評を歴史・文化・社会のコンテキストの中で行ったり、音楽に反応したりする領域である。

(3) 全米コア音楽スタンダードとコロラド州音楽スタンダードの構成の比較

コロラド州音楽スタンダードと全米コア音楽スタンダードの構成を比較すると、まず芸術プロセスのうち「音楽の創造」が共通している。また、「音楽の表現」は、全米コア音楽スタンダードの「演奏」と共通する内容である。「音楽の理論」と「音楽の美的評価」は、全米コア音楽スタンダードにはみられない、コロラド州音楽スタンダードの独自の芸術プロセスである。特に「音楽の美的評価」に関しては、社会、文化、歴史のコンテキストと関連させて音楽を批評したり、評価したりする内容であり、全米コア音楽スタンダードの芸術プロセスにおける「反応」と「関連性」に類似する点がある。また、全米コア音楽スタン

ダードには、芸術プロセスごとに構成要素が芸術プロセス間のつながりを意識して同じような言葉で構成されているのに対し、コロラド州音楽スタンダードは、芸術プロセスごとにそれぞれ達成目標が設定されている。その達成目標をみると、コロラド州音楽スタンダードの芸術プロセスの説明では、音楽の理解や音楽活動の過程、構造の理解、評価の過程のように、全米コア音楽スタンダードと同じ方向性がうかがえる一方で、演奏する、作曲する、聴覚的に識別し区別するような音楽の知識技能についても言及されている。

3. 全米コア音楽スタンダードの内容の検討

(1) 全米コア音楽スタンダードの内容

第1節で全米コア音楽スタンダードの構成要素を示したが、その構成要素ごとに全ての学年（Pre～Grade8）に共通する「パフォーマンススタンダード」「永続的な理解」「本質的な問い」の3つ、そして学年ごとの細かい内容スタンダードが記載されている。「パフォーマンススタンダード」は、生徒が達成すべきことの明確な表現であり、アンカースタンダードを測定可能な学習目標に変換する、とされている。このように生徒の最終的な目標を掲げ、それを達成できるように学年ごとの内容スタンダードが設定されているため、体系的な学びにつながっている。

上述した全米コア音楽スタンダードの構成要素とその「パフォーマンススタンダード」、「永続的な理解」、「本質的な問い」の一部を例として表4に取り出す。

表4 全米コア音楽スタンダードの構成内容

芸術プロセス 構成要素	創造 イメージ	演奏 選択	反応 選択	関連性 関連性
パフォーマンススタンダード	様々な目的やコンテキストのための音楽的アイデアの生成	関心、知識、テクニクスキル、コンテキストに基づいて提示される様々な音楽作品の選択	特定の目的やコンテキストに適切な音楽の選択	音楽作りのための知識と個人的経験の統合と関連付け
永続的な理解	音楽家の作品に影響を与える創造的なアイデア、概念、感情は、様々なソースから生まれる	演奏者の音楽作品への関心や知識、自身のテクニクスキルの理解、演奏のコンテキストはレパートリーの選択に影響を与える	個人の音楽作品の選択は、関心、経験、理解および目的に影響される	音楽家は、自分の個人的な関心、経験、アイデア、知識を、創造、演奏、反応に結びつける
本質的な問い	音楽家はどのように創造的アイデアを生み出すのか	演奏者はどのようにレパートリーを選択するのか	個人はどのように経験する音楽を選択するのか	音楽家はどのようにして創造、演奏、反応に意味のあるつながりを作るのだろうか

(National Core Music Standards より筆者作成)

構成要素ごとに定められている「パフォーマンススタンダード」を横軸にみると、目的やコンテキストの伴った生成や選択など、共通した言語で表記されており、どの芸術プロセスでも音楽学習に一貫性を持つことができるようになっている。グレードごとの内容も、例えば「演奏」における「選択」のグレード2では「様々な音楽の選択に対する個人的な関心、知識、目的を説明する」から、グレード6では「特定の目的や状況で演奏する音楽を選択するために教師が定めた基準を適用し、それぞれが選ばれた理由を説明する」というように、学年ごとに「選択」について発展した内容になっていく。ここでも、音楽を客観的に捉え活動のプロセスに重心を置いて学習を行っている。また、「永続的な理解」「本質的な問い」の詳細に関しては、次の項で説明する。

(2) 「永続的な理解」と「本質的な問い」について

全米コア音楽スタンダードの大きな特徴として、芸術プロセスの構成要素ごとに「永続的な理解」と「本質的な問い」が設定されたことが挙げられる。「永続的な理解」と「本質的な問い」は、教育者と学生の両方が芸術プロセスの中で情報、スキル、経験を体系化するのに助けるために全米コア音楽スタンダードの中で使われている。「永続的な理解」とは、教室を超えて永続的な価値を持つ、重要なアイデアやコアプロセスを要約したものとされている。また、「本質的な問い」では、思考を刺激し、探究を引き起こし、より多くの質問を誘発することで、「永続的な理解」を明らかにすることに導くものとされている。「全米コア芸術スタンダード：芸術学習のための概念枠組み（National Core Arts Standards: A Conceptual Framework for Arts Learning）」の中では、Jay McTighe と Grant Wiggins の著書 *Understanding by Design* (ASCD, 2005) から、以下を引用している。

永続的な理解とは、規律の中心であり、教室を超えて永続的な価値を持つ、重要なアイデアやコアプロセスを要約した提示である。特定の内容領域を学習した結果、学生が理解すべきものを統合する。さらに、学生が生涯にわたって内容領域をどのように評価すべきかを明確にする。また、永続的な理解によって、学生は芸術以外の分野とのつながりを持つことができるようになる。様々な活動を通して身に付けた永続的な理解を真の意味で理解することは、その核心要素を説明し、解釈し、分析し、適用し、評価する生徒の能力によって証明される。

また著 McTighe と Grant Wiggins は、「内容をカバーすべきものと考えのではなく、知識と技能を、その科目の主要な問題を理解するための中心的な問題に対処する手段として考える」（National Core Arts Standards: A Conceptual Framework for Arts Learning, p.13）と述べている。また、『「本質的な問い」』とは、学生が最初に遭遇する特定のトピックを越えた移動を奨励し、暗示し、さらには要求するものであり、したがって、概念上のつながりとカリキュラムの一貫性を促進するために何年にもわたって繰り返すべきである」（National Core Arts Standards: A Conceptual Framework for Arts Learning, p.13）と主張している。

以上の文より、知識技能を音楽の中心的な問題に対処する手段ということから、音楽的知識技能の獲得だけでなく、音楽の本質的な問題にまで言及しようとしていると言える。

例えば、表4の「創造」の「イメージ」における「永続的な理解」を見てみると、「音楽家の作品に影響を与える創造的なアイデア、概念、感情は、様々なソースから生まれる」とある。これは、音楽を本質的に捉えており、この考え方のプロセスは音楽科を超えて将来必要な能力であることが考えられる。また、他の芸術分野で少し異なる言葉で同じような「永続的な理解」が設定されていると述べられており、他分野間でも学習の一貫性が保たれている。同じ構成要素の「本質的な問い」をみると、「音楽家はどのように創造的なアイデアを生み出すのか」とあり、この問いを考えることを通して「永続的な理解」へアプローチしやすくなっている。

4. コロラド州音楽スタンダードの内容の検討

(1) コロラド州音楽スタンダードの内容

コロラド州音楽スタンダードの内容としては、①8つの達成目標、②学年レベルの期待（Grade level expectation）[プレスクールでは（Preschool Learning and Development Expectation）]、③結果の証拠（Evidence Outcomes）[プレスクールでは（Indicators of Progress）]、④教育的文脈とつながり（Academic Context and Connections）[プレスクールでは（Examples of High-Quality Teaching and Learning Experiences）]の4項目ごとに細かい学習へのアプローチが示されている。また、教育的文脈とつながり（Academic Context and Connections）では、さらに「コロラド州本質的スキル（Colorado Essential Skills）」、「探究的な問い（Inquiry Questions）」、「広がりをつなぐ（Expand and Connect）」の3つに細かく分かれて、学習のアプローチが示されている。以上の項目がグレード（Pre～高等学校）ごとに示され、スタンダードが構成されている。例として「音楽の表現」におけるグレード5のスタンダードを表5に示す。

表5 コロラド州音楽スタンダード「音楽の表現」グレード5

G5	<p>「音楽の表現」 様々な考えや感情を伝えるために習得した音楽的知識やスキルを実践し、洗練し、演奏するプロセス。</p> <p>達成目標 1. 音楽の概念を示すために、様々な方法で知識とスキルを適用する。</p> <p>学年レベルの期待 1. 学習したリズム、旋律、和音の伴奏の構成要素を示す曲を演奏することができる。</p> <p>結果の証拠 a. 複数の声部を含む曲を演奏する（例えば、パートナーソング、ラウンド、ディスカント）。 b. 学習したメロディー、リズム、和声のパターンを表現的な要素を使って演奏する。 c. 長調と短調の曲を演奏して歌う。</p> <p>教育的文脈とつながり コロラド州本質的スキル 1. 収集した情報と個人的な経験を結び付けることで、解決策の適用やテストを行う。（起業家的：批判的思考／問題解決） 2. 個人的な経験に基づいて、調査すべき困難な問題を特定する。（起業家的：創造性／イノベーション） 3. アイデアを生み出し、役割と責任を協議し、意思決定における合意を尊重するために、他の人が特定したプロセスに従う。（市民／対人：コラボレーション／チームワーク）</p> <p>探究的な問い 1. ハーモニーと旋法（調号）は音楽にどのような影響を与えるか？ 2. 音楽は言語のようなものか？ 3. 旋律的パターンとリズム的パターンを識別することは、どのようにして知識とスキルを向上させるのだろうか？</p> <p>広がりにつながり 1. 物語にメインのアイデアが含まれているように、音楽にもテーマが含まれている。 2. 音楽のリズムパターンは数学に見られるパターンと関係がある。 3. 基本的な和音構造を認識することで、基本的なハーモニーが明確で繰り返し可能なパターンに従っていることが分かる。</p>
----	--

(Colorado Academic Standards Music, p.60 より筆者作成)

「達成目標」は全ての学年で共通している。その目標を最終的に達成するために各学年においてどのようなレベルが必要なのかについて「学年レベルの期待」で記されている。また、「学年レベルの期待」が達成しているというのは具体的にどのような活動ができることなのかについて、「結果の証拠」で示されている。このように、コロラド州音楽スタンダードでは、学年や達成目標ごとに内容スタンダードが詳細に設定されており、その学年ではどのように教育を行い、その結果どのような能力が身につくかについてスタンダードを見ることですぐに分かるようになっている。

「教育的文脈とつながり」は、コロラド州音楽スタンダードの中でも特徴的な項目の1つであるため、次の項で検討していく。

(2) 教育的文脈とつながり (Academic Context and Connections) について

「教育的文脈とつながり」は、前述したように、学年・達成目標ごとに設定されている。「コロラド州本質的スキル」、「探究的な問い」、「広がりにつながり」の3つの項目で構成されている。

「コロラド州本質的スキル」とは、コロラド州が2008年に21世紀の労働力と高校卒業後の積極的な市民活動に生徒が備えるためのコンテンツスタンダードの採用を求める法案（CAP4K としても知られる上院法案 212）が可決されたことによって、スタンダード上に記載されるようになったもので、その項目を学ぶことによってどのような労働力につながるのかが具体的に明記されている。

また、「探究的な問い」では音楽を本質的に捉えるような問いが設定されている。例えば表5では、「ハーモニーと旋法（調号）は音楽にどのような影響を与えるか？」とあり、音楽の要素を客観的に捉えるメタ的な問いになっている。

「広がりにつながり」では、音楽という科目をこえた永続的な学びに関することが述べられている。例えば表5では、「物語にメインのアイデアが含まれているように、音楽にもテーマが含まれている。」とあり、音楽以外の分野で音楽と共通することについて述べられており、音楽だけに留まらない、横断的な学びにつながっている。

5. 全米コア音楽スタンダードとコロラド州音楽スタンダードの内容の比較

これまで、全米コア音楽スタンダードとコロラド州音楽スタンダードの内容を検討してきた。その検討を基に、両スタンダードを比較する。

両スタンダードの内容を見てみると、演奏や音楽の創作に関して、全米コア音楽スタンダードでは音楽を認識したり、分析したり、コンテクストを結びつけたりするものや、音楽リテラシーの育成のような、音楽を客観的に考えたり思考のプロセスについて考察したりといった活動が中心として述べられている。一方コロラド州音楽スタンダードは、全米コア音楽スタンダードと同じ方向性も読み取れる反面、表現を伴った演奏をするスキルや目的のある創作をするといった、音楽的知識技能についても言及している。もちろん、全米コア音楽スタンダードも音楽的知識技能の習得も前提に学習が進められていると考えられるが、コロラド州は音楽をメタ認知的活動や活動のプロセスのみならず、どのような音楽的知識技能が身につくかについても記載されている。

コロラド州音楽スタンダードでは、全米コア音楽スタンダードにある「本質的な問い」「永続的な理解」が見当たらない。しかし、「教育的文脈とつながり」の項目で、「探究的な問い」と「広がりにつながり」がそれぞれ「本質的な問い」と「永続的な理解」に類似している。加えて、「本質的な問い」と「永続的な理解」は全米コア音楽スタンダードにおいて全学年に共通する構成要素ごとにそれぞれ1つ設定されているのに対し、コロラド州音楽スタンダードでは多少重なる表現もあるが、学年・達成目標ごとに複数個設定されている。また、21世紀型スキルをコロラド州が再構成した「コロラド州本質的スキル」という項目もスタンダード上に設けられ、スタンダードで示された内容を学習した結果、どのような将来の労働力につながるかについて明記されていることも大きな特徴である。

6. おわりに

本研究では、全米コア音楽スタンダードとコロラド州音楽スタンダードの構成と内容を比較・検討することを通して、コロラド州音楽スタンダードの特徴として次の4点が見い出された。すなわち、①全米コア音楽スタンダードに準拠しているが、芸術プロセスやスタンダードの構成・内容が異なること、②スタンダードの中身では、活動の過程やメタ認知的な活動に焦点を当てるだけでなく、音楽的な知識技能についての具体的なアプローチが学年ごとに細かく示されていること、③「教育的分脈とつながり」という、全米コア音楽スタンダードの「永続的な理解」と「本質的な問い」に類似する項目があり、学年・内容ごとに設定されていること、④「コロラド州本質的スキル」という項目で、そのスタンダード内容を通してどのような労働力が身につくかについて具体的に明記されていること、である。

本研究では、コロラド州音楽スタンダードの細かい内容の検討や、スタンダードが制定された背景についての言及には至らなかった。特に、コロラド州音楽スタンダードの芸術プロセスである「音楽の理論」や「音楽の美的評価」は州独自の項目であり、内容をさらに細かく分析していくことで米国の音楽教育における新たな側面を垣間見ることができないのではないかと考えている。今後の課題として、コロラド州音楽スタンダードの内容分析やその項目の設定された背景を明らかにしていきたい。

引用・参考文献

- 峯恭子 (2015) 「全米コア音楽標準 (2014) にみる構成の特徴—全米芸術教育標準 (1994) との比較を通して—」『中国四国教育学会 教育学研究紀要 (CD-ROM 版)』 61 巻 pp.258-263
- 齋藤紘希 (2017) 「育成すべき資質・能力を踏まえた音楽カリキュラムの諸相に関する研究—日本の「学習指導要領」とアメリカ合衆国の「全米コア芸術標準」の比較を通して—」『中国四国教育学会教育学研究紀要 (CD-ROM 版)』 63 巻 pp.757-762
- 武内裕明 (2014) 「全米コア音楽標準における聴取の扱い—第 8 学年までの標準の検討を通じて—」『弘前大学教育学紀要』 111 巻 pp.113-119

参考 web 資料

- National Association for Music Education 2014 Music Standards (P-K8 General Music)
<https://nafme.org/wpcontent/files/2014/11/2014-Music-> (2020 年 6 月 1 日取得)
- Colorado Academic Standards Music
<https://www.cde.state.co.us/coarts/2020cas-mu-p12> (2020 年 6 月 1 日取得)
- Colorado Essential Skills,
<https://www.cde.state.co.us/standardsandinstruction/essentialskills> (2020 年 6 月 1 日取得)
- Implement the 2020 Colorado Academic Standards
<https://www.cde.state.co.us/standardsandinstruction/2020implementation> (2020 年 8 月 10 日取得)
- National Core Arts Standards: A Conceptual Framework for Arts Learning
https://www.nationalartsstandards.org/sites/default/files/NCCAS%20%20Conceptual%20Framework_0.pdf
(2019 年 5 月 6 日取得)
- 2014 Music Standards
<https://nafme.org/my-classroom/standards/core-music-standards/> (2019 年 6 月 2 日取得)
- State Adoption of New Arts Education Standards Since 2014
<https://www.nationalartsstandards.org/map> (2019 年 5 月 20 日取得)